

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —				
話・聞	:	話す・聞く能力		
書 く	:	書く能力		
読 む	:	読む能力		
言 語	:	言語についての知識・理解・技能		

(◇:「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	A設定通過率(%)	B通過率(%)	AとBの比較
A話すこと・聞くこと (1)3・4学年エ	1	一 話の中心に気を付けながら要点を聞き取ることができる。		話・聞	70	65	—
A話すこと・聞くこと (1)3・4学年アエ		二 話の内容を聞き取り要点をメモすることができる。		話・聞	55	69	↑
A話すこと・聞くこと (1)3・4学年イエ		三 (1) 話の中心に気を付けて聞き、質問したり、 (2) 要点を聞き取ったりすることができる。	◇	話・聞	50	71	↑
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4学年ウ(イ)、 イ(ウ)	2	一 (1) 漢字を文脈の中で正しく書くことができる。		言 語	70	68	—
		(2) 漢字を文脈の中で正しく読むことができる。		言 語	80	87	↑
		(3) 漢字を文脈の中で正しく書くことができる。		言 語	80	79	—
		(4) 漢字を文脈の中で正しく読むことができる。		言 語	60	55	—
		(5) 漢字を文脈の中で正しく書くことができる。		言 語	70	72	—
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4学年ア(イ)	二	(1) 文脈に合うことわざ、慣用句等を指摘することができる。	◇	言 語	70	57	↓
		(2)	◇	言 語	70	51	↓
		(3)	◇	言 語	70	79	↑
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4学年ウ(ア)	三	簡単な単語について、条件に従って、ローマ字を読んだり、書いたりすることができる。	◇	言 語	45	55	↑
B書くこと (1)3・4学年アイウエ	3	一 関心のあることなどから、書くことを決めることができる。		書 く	80	97	↑
		二 相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を収集したり、選択したりして書くことができる。書こうとするものの中心を明確にして書くことができる。	◇	書 く	50	82	↑
C読むこと (1)3・4学年イ	4	一 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて書き抜くことができる。		読 む	70	70	—
C読むこと (1)3・4学年エ		二 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読むことができる。	◇	読 む	50	45	—
C読むこと (1)3・4学年イ		三 情報を比べて表現の仕方を読み取り、伝え方の工夫について自分の考えをまとめることができる。	◇	読 む	50	40	↓
C読むこと (1)3・4学年ウ	5	一 登場人物の行動について、叙述を基に想像しながら読むことができる。		読 む	60	90	↑
C読むこと (1)3・4学年ウ		(1) 登場人物の気持ちについて、叙述を基に想像しながら読み、当てはまる文章を書き抜くことができる。		読 む	60	29	↓
C読むこと (1)3・4学年ウ		(2) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちについて、叙述を基に想像して読み、ふさわしい表現に言い換えることができる。	◇	読 む	50	21	↓
C読むこと (1)3・4学年アオ		(3) 登場人物の気持ちやその理由をはっきりさせて、自分の考えをまとめることができる。	◇	読 む	45	46	—

A設定通過率とB設定通過率を比較する際は、下記により判断する。
+5%より上の場合:「↑」 ±5%の範囲内:「—」 -5%より下の場合:「↓」

評価の観点	話・聞	書 く	読 む	言 語
A設定通過率	55	65	55	68
B通過率	64	89	49	67

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問 題 の 内 容	設 定 通過率	東 青 管 内		西 北 管 内						
			青森市	東郡	五所川原市	つがる市	西・北郡				
1	一	話の要点の聞き取り	70	65	65	62	64	60	71	63	
	二	話の内容の聞き取り	55	70	70	78	64	63	65	65	
			55	57	57	56	55	54	56	55	
	三	(1)	話の内容に合った質問と要点の聞き取り	50	71	71	72	71	68	74	72
		(2)		45	62	62	60	59	57	63	60
2	一	(1)	「きむい」の書き方	70	66	66	61	69	68	74	66
		(2)	「四季」の読み方	80	85	85	84	86	84	89	85
		(3)	「かんけい」の書き方	80	80	80	81	81	81	84	79
		(4)	「用（いる）」の読み方	60	52	52	53	35	40	36	31
		(5)	「ともだち」の書き方	70	73	73	70	70	67	72	72
	二	(1)	ことわざ、慣用句等の指摘 (百聞は一見にしかず)	70	56	56	54	69	74	66	65
		(2)	ことわざ、慣用句等の指摘 (七転び八起き)	70	48	48	49	66	70	70	58
		(3)	ことわざ、慣用句等の指摘 (十人十色)	70	88	88	85	70	63	81	70
	三	ローマ字の読み書き (hotate)	45	57	58	47	57	57	62	55	
	3	一	書く事柄の決定	80	96	97	95	97	96	99	96
二		相手や目的に応じた表現 (おすすめの手紙)	50	82	82	81	86	85	89	85	
4	一	中心となる語や文の書き抜き	70	72	72	75	72	71	75	70	
	二	要点の読み取り	50	44	44	42	46	46	46	47	
	三	表現の仕方の読み取りと伝え方の工夫	50	40	41	30	35	38	33	35	
5	一	叙述を基にした人物の行動の想像	60	90	90	90	89	88	89	90	
	二	(1)	人物の心情に適した叙述の書き抜き	60	30	30	22	28	32	30	22
		(2)	叙述を基にした人物の心情の想像	50	20	21	13	19	21	22	16
		(3)	人物の心情やその理由についての考え	45	45	46	36	47	43	50	49
教 科 全 体			61	63	63	61	62	62	65	61	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内		三 八 管 内		県全体			
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
62	63	59	62	60	66	68	70	63	60	60	58	67	67	65	65
66	67	74	57	64	70	70	69	70	69	73	53	71	70	73	69
53	54	58	48	49	54	55	55	54	54	55	51	58	58	58	56
69	71	68	63	64	72	73	74	72	73	76	65	72	72	70	71
61	61	64	64	53	61	59	64	62	63	65	55	64	64	61	62
67	66	72	77	61	71	72	64	74	68	72	55	68	70	59	68
88	89	90	86	81	88	91	88	87	90	91	87	87	87	87	87
79	79	78	85	72	79	75	81	79	76	77	74	80	81	72	79
67	68	67	70	60	61	69	53	59	61	67	38	49	52	37	55
73	73	77	75	64	75	72	76	77	75	76	72	70	71	64	72
56	57	62	52	51	56	59	61	52	51	55	38	57	59	50	57
52	54	65	43	40	49	44	52	50	50	54	39	48	48	49	51
60	60	67	56	60	86	91	86	83	57	57	59	89	89	87	79
53	54	60	49	47	58	59	57	57	51	53	43	52	53	47	55
97	96	97	99	98	97	97	97	96	97	98	94	97	97	95	97
79	80	81	80	74	87	88	88	85	76	79	65	81	81	79	82
71	71	74	70	71	70	73	70	68	64	65	62	69	70	64	70
46	45	44	51	46	46	46	45	46	48	50	42	46	46	44	45
40	40	42	42	40	41	39	42	42	42	44	32	39	39	41	40
90	89	93	92	89	90	92	91	88	88	89	86	91	92	90	90
28	30	34	29	15	29	31	33	26	29	33	13	30	32	25	29
19	20	19	18	19	21	27	24	17	21	25	9	23	23	20	21
47	47	48	47	40	48	50	51	47	42	44	32	44	43	48	46
62	62	65	62	57	64	65	65	63	61	63	53	63	64	60	63

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
② 二(1)	57	百(12.5)、無答(7.0)、十(5.0)、三(4.5)、漢数字以外(4.0)、二(2.5)、四(1.0)、六(0.5)、八(0.5)
② 二(2)	51	八(24.5)、無答(4.0)、漢数字以外(4.0)、五(3.5)、四(3.5)、三(3.5)、二(3.5)、一(3.0)、六(1.0)、九(1.0)、十(1.0)、百(1.0)
④ 三	40	アウエ(38.0)、アイウ(6.5)、アエオ(3.0)、イウエ(2.5)、アイオ(2.0)、アウオ(1.5)、イエオ(1.0)、イウオ(0.5)、無答(0.5)
⑤ 二(1)	29	「いったいどうしたのだ。ため息ばかりついて。」からの書き抜き(18.5)、「とびおりのではありません。ころげおちたのです。」からの書き抜き(12.5)、無答(5.5)、「さびしい野原だなあ」(5.0)、「そうか、そうか、そうだったのか」(3.5)、「きみは、わらいながら、あの子のかごからとびおりのはずだが」(3.0)、「ころげおちてしまいました」(2.5)
⑤ 二(2)	21	無答(13.5)、太陽に見られている(4.5)、自分のことだという(4.5)、自分が柿だという(4.0)、ころげおちた(3.0)、まだ自分が青い柿だという(3.0)

- ②二(1)、(2)では、誤答の原因として、誤答が多岐にわたっていることから、数多くあることわざや慣用句等にふれる機会が少ないことや、その意味を理解していないことが考えられる。
- ④三では、誤答の原因として、ウの「ふき出しを使い、会話の中で説明している。」を選択した解答が多いことから、パンフレットでは会話は行われていないのに、丸囲みの言葉をふき出しと捉えたと考えられる。
- ⑤二(1)では、誤答の原因として、柿の実ではなく、太陽の会話から書き抜いた解答が多いことから、どの人物の言動なのかを明確に捉えることができなかつたことが考えられる。また、【話し合いの様子】にある小林さんの発言を書き抜いた解答が多いことから、問題文をしっかりと読んで解答していなかつたことが考えられる。
- ⑤二(2)では、誤答の原因として、無答や場面が移り変わった後の人物の変化を捉えることができなかつた解答が多かつたことから、場面の移り変わりに注意しながら、文章全体を俯瞰した読み取りができなかつたことが考えられる。

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 ④三

○出題のねらい

情報を比べて表現の仕方を読み取り、中心となる語や文を見付け、目的を意識した伝え方の工夫について自分の考えをまとめることができるかを判断する問題である。

出題の意図は、平成29年度の分析において、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることに課題が見られたため、複数の情報を比較し、自分の考えをまとめ、共通する内容に適した文を選ぶ問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、比較した情報の共通点に合わない文を選んだ解答が多かつた。

原因として、図の内容(非連続型テキスト)と文の内容(連続型テキスト)の比較や読み取りが十分に行えなかつたことが考えられる。

課題として、問題の条件を踏まえた複数の情報の比較、非連続型テキストと連続型テキストの比較や読み取りが不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起しつつ、文章の大体を捉えさせ、文と文の関係や段落相互の関係に注目して情報を見付けさせたり、複数の情報を比較させたり、目的に応じて要約させたりすることが大切である。なお、その際には、複数の資料を使ったり、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」と関連させて指導したりすることも大切である。

指導例

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて自分の考えをまとめる力を高める指導
～単元名「きょうみをもったところを発表しよう」(第4学年)～

【指導の流れ】4学年における「動いて、考えて、また動く」(作：高野進)を例とした単元の流れ

1 筆者の考え方に興味をもったところについて話し合うという学習の見通しをもたせる。

学習活動 体育の学習内容に関連させ、短距離走の動画等を鑑賞した後に、教材文を読み、筆者の体験や考え方に興味をもつ。



本文を読んで、興味をもった部分を引用しながら、考えをまとめて話し合います。



速く走るための工夫について興味をもちました。

筆者の体験や考え方に興味をもちました。



ポイント

筆者の経験や考え方に対する興味や関心から生じる自分の考えについて、相手に伝えるために興味をもった部分を引用しながら読み取るという目的意識をもたせる。

2 段落相互の関係を捉えさせる。

学習活動① 教材文全体を「はじめ」「なか」「おわり」に分け、内容の大体を捉える。

学習活動② 意味段落ごとに焦点を絞って読み取る。



図が表す様子を、本文の中から見付けましょう。図1の矢印の意味を表す言葉は何だと思いますか。

「ひざを高く引き上げる」だと思います。理由は、図の中でも特にひざを「引き上げる」ことを強調するために矢印を使っているからです。

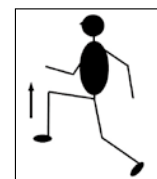


図1

～(話し合いが続く)～



筆者が体験したり気付いたりしたことを整理しましょう。



学習活動③ 各段落に分けて小見出しを付け、カード化して関係図を作り、段落構成の工夫について話し合う。

ポイント

- ・自分の考えをまとめさせるために、焦点を絞って内容の中心となる語や文を見付けさせる。
- ・筆者が、考えをより強調させるために、段落構成を工夫していることに気付かせる。

3 一番興味をもった部分を引用しながら自分の考えをまとめ、話し合わせる。

学習活動① 筆者の体験や工夫、考え方や伝えたいことについて興味をもった部分を引用し、自分の考えを文章にまとめる。

学習活動② まとめた文章を基に、話し合いを行う。(ペア又はグループ)



「うでで走れ」という速く走る工夫に興味をもちました。私はあまり深く考えないけれど、筆者は、何度も自分を見直して取り組んでいたからです。

「成功や失敗をくり返し」という言葉に興味をもちました。自分の走りを見付けることが大事だと思ったからです。



ポイント

興味をもった部分を引用することを通して、筆者の考え方や伝えたいことに対する自分の考えをまとめさせ、話し合わせる。

学習活動③ 話し合ったことを基に、自分が考えたことをまとめ直し、学習活動を振り返る。

○課題の見られた問題 [5]二(1)、(2)

○出題のねらい

- ・ (1)は、登場人物の気持ちについて、叙述を基に想像しながら読み、当てはまる文章を書き抜くことができるかを判断する問題である。

出題の意図は、平成28年度の分析において、叙述を基にした登場人物の行動の想像に課題が見られたため、行動や会話、地の文などの叙述から登場人物の気持ちに適した言葉を書き抜く問題とした。

- ・ (2)は、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちについて、叙述を基に想像して読み、ふさわしい表現に言い換えることができるかを判断する問題である。

出題の意図は、平成29年度の分析において、文章全体から受ける印象だけの読み取りで、叙述を基にして人物像を捉えきれなかったため、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちや状態の変化について複数の場面の叙述を基に想像して読み取る問題とした。

○分析結果と課題

- ・ (1)は、分析の結果、正答である人物以外の会話を書き抜いた解答が多かった。

原因として、どの人物の言動なのかを明確に捉えることができなかったことが考えられる。

課題として、人物の行動や会話、地の文などの複数の叙述を関係付けて人物の心情や行動、人物像を捉えることが不足していることが考えられる。

- (2)は、分析の結果、無答や場面が移り変わった後の人物の変化を捉えることができなかつた解答が多かった。

原因として、場面と場面とを関係付けたり、複数の叙述を関係付けたりして想像して読むことができなかつたということが考えられる。

課題として、登場人物の行動や会話、情景などの叙述を、一つの場面からだけでなく文章全体から複数取り出し、それらを関係付けて捉えることが不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、物語全体を見通して、複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読むことが大切である。さらに、「叙述を基にしてどう考えたのか」という理由を付けて話し合いをすることで、それぞれの考えが自分の体験や読書経験に基づいていたり、他の叙述と関係付けられていたりすることに気付くことができるように指導することも大切である。

高学年では、読む本や文章が多様になるため、作者や筆者の述べたい内容や要旨を捉えるなど、文章全体を読んだり、複数の本や文章などについて様々な読み方を身に付けたりする必要がある。その際、例えば、物語全体を見通すことができるような1枚の学習シートを活用し、場面と場面とを関係付け、複数の叙述を矢印で結んだり、それらからどのように考えたのか、そう考えた理由などを書き込んだりすることができるようにすることが考えられる。また、同様のシートを拡大して黒板に掲示し、そのシートを基に児童が話し合いをすることで、叙述に基づいて互いの考えを共有することができるようにすることも考えられる。

指導例

物語全体を見通して、複数の場面を関連付けながら読む指導 ～单元名「全文シートを基に、場面と場面を関係付けて 登場人物のつながりを読み取ろう」(第4学年)～

【指導の流れ】4学年における「ごんぎつね」(作:新美南吉)を例とした単元の流れ

1 「ごんぎつね」に出てくる登場人物と場面の様子を「ごん」を中心に確認させる。

学習活動 登場人物を確認し、「ごん」を中心に出来事を整理しながら、学習の見通しをもつ。



このお話に出てくる登場人物についてたしかめましょう。

「ごん」が一番多く、「兵十」が次に多いね。

「ごん」は、最後の場面で兵十にうたれてしまうよ。

兵十のために、くりやまつたけを持っていったのにどうしてだろう。

「ごん」と「兵十」のつながりを見るために、全文シートに関係を書き込んでみてはどうですか。



ポイント

・気持ちの変化を想像するために、文章全体を見通した読みが必要であることに気付かせる。

※1 全文シート……文章全体を見通すことができるような学習シート

*教科書をつなぎ合わせて見開き一枚にしたもの

*全文を打ち直し、見開き一枚にしたもの 等

2 「ごん」と「兵十」の関係が分かる複数の叙述を中心に矢印で結び付けて、気持ちの変化を想像させる。

学習活動① 個人用全文シートに、「ごん」と「兵十」の関係が分かる会話、行動、情景を表す言葉を色分けしながら囲み、それぞれ関係する叙述を矢印で結び付け、どのように考えたのかを書き込む。

学習活動② 拡大全文シートを黒板に貼るなどして、全体で共有する。



「兵十」が「ごん」を呼ぶ呼び名が、1の場面では「ぬすとぎつねめ」、6の場面の初めでは「ごんぎつねめ」、6の場面の終わりでは「ごん」「おまえ」と変化しているよ。



「ごん」の行動を見ると、1の場面では「いたづらがしたくなつたのです」「一生けんめいににげていきました」、2の場面では「ちょっ、あんないたづらをしなけりゃよかった」、3の場面では「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か」……と、自分のしたいたづらを後悔し、自分と同じような立場の兵十に近づきたくなっているわ。



「ごん」は、うなぎのつぐないにしたいわしのことをしまったと思い、次の日も次の日も兵十にくりを持っていったよ。



「ごん」が「ぐったりと目をつぶったままうなずいた」のは、どうしてだろう。



自分がくりを持ってきていたと分かってもらえてうれしかったんじゃないの。



「兵十」は、場面6の最後のところで、やっと「ごん」の思いに気が付き、気持ちが近づいた気がするよ。



～（話合いが続く）～

「ごん」の思いと「兵十」の思いの違いは何ですか。



「ごん」は「兵十」に近づきたいとずっと思っていたけど、「兵十」はなかなかその思いに気が付かなかったことです。



「ごん」はずっと「兵十」を思っていたけど、「兵十」は最後の最後でやっと「ごん」の思いに気が付いたことです。

学習活動③ 気持ちの変化を明らかにする効果的な手立てについての振り返りを行う。



お話全体の流れが見えて、変化がよく分かったわ。



次に学習するお話にも使えそうだから試してみたいなあ。

ポイント

- ・全文を俯瞰し、登場人物が関係し合う内容が表れている叙述を探してつなぎ合わせることで、関係を視覚化させ、気持ちの変化を想像させる。
- ・学習で活用した手立てについての振り返りを行い、その効果について児童に実感させる。